故郷の人物を知ろう

# たかおか 温故知新

## 業界発展に尽力した銅器問屋

### 5代 塩﨑 利平(1856～1918)

5代塩﨑利平は高岡銅器産業の発展に尽くした銅器問屋で、金森宗七（令和7年3月号掲載）の後を受けて活躍しました。

塩﨑家の祖の信州守護・小笠原長秀は1400年に一揆を逃れ、二上山麓に移住して横田村を開拓したと伝わります。孫の代に塩﨑を姓とし、のち子孫は十村に任じられました。

初代・指物屋次良右衛門（のち道具屋利兵衛）は1740年分家して源平板屋町に住み金物商を営み、2代は翌年木舟町に転居しました。

5代利平は1869年、先代の死去を受け13歳で家業を受け継ぎ、商売に邁進しました。利平は外国人の好みを調査して、1875年横浜、1882年神戸に進出し、銅器の輸出に努めるとともに、1890年の内国勧業博覧会をはじめ、国内外の博覧会に出品、受賞を重ねました。

5代 塩﨑利平

しかし、銅器は次第に品質が落ち、売り上げが下がりました。利平は1890～97年頃、農商務省の委嘱で技術者を招き、意匠や形状、鋳造や着色などを改良研究し、その成果を同業者に無償で提供し業界全体の改善を図りました。やがて銅器は高岡の主要産業に発展し、1908年利平はその功績で緑綬褒章を受章しました。

その間利平は1899年の県工業会高岡部会や同物産陳列所などの設立に関与し、1906年高岡銅器同業組合の初代理事長に就任しました。さらに、市会議員、商業会議所理事などの要職も長年務めました。

（仁ヶ竹主幹）

**問合先** 博物館 TEL 20-1572